

“V 过”と「X は V したことがある」の意味機能の差異 —時間詞との共起関係を中心に—¹⁾

渡辺 昭太

要旨

我们一般认为,汉语的动态助词“V 过”和日语的「X は V したことがある」句式相当。但是,在有些场合我们却不能把“V 过”直接翻译成「X は V したことがある」句式。尤其在一个句子里“V 过”和时间状语共现时,“V 过”很难直接翻译成「X は V したことがある」的句式。

笔者认为,「X は V したことがある」句式本质上是一种存在句,特别是西山 2003 所提出的绝对存在句的一种形式。此句式把「X が V した」这个事情看作为一个非指示的,不特定的事件,以此表达这种事情之前是否发生过这样一个信息,而不能表达该事情什么时候发生这样一个信息。时点这个概念可以把事情特定化,所以如果这个句式和时间词一起使用,就会把该事件看作为特定的事件,因此这个句式基本上不能与时间词共现。与此相对,汉语的“V 过”可以与各种各样的时间词共现。究其原因,是因为汉语的“V 过”表达的意思是该动作或状态的终结点的通过。也就是说,汉语的“V 过”具有动态助词的语法功能。“V 过”以该动作或状态的发生为前提,表达其动作或状态的终结点的通过。“V 过”具有动态助词的语法功能,因此,即使和时间词一起使用表达该事情的发生时点,它们之间也不会产生语义上的矛盾。这就是“V 过”可以跟各种各样的时间词共现的原因。

キーワード: 経験アスペクト, V 过, V したことがある, 存在文, 時間詞

1. 問題提起

本稿の目的は、中国語の経験アスペクトマーカ―“V 过”と、日本語で経験を表す形式である「V したことがある」の振る舞いの共通点と相違点を考察し、両者の意味機能の差異を浮き彫りにし、また、その差異が生じる原因について、適切な回答を与えることである。²⁾

中国語の経験アスペクトマーカ―“V 过”と日本語の「V したことがある」は、対訳できる場合が多く、類似した意味機能をもつことがわかる。³⁾

- (1) 我 吃过 这 种 鱼。(刘月华等 2001:406)
Wǒ chīguo zhè zhǒng yú.

1SG 食べる-EXP この CL 魚

[私はこの魚を食べたことがある。] (相原他訳 1996:321)

しかし、“V 过”と「V したことがある」は常に対訳できるとは限らない。対訳できない場合や、対訳すると不自然になる場合もある。特に、“V 过”がある種の時間詞⁴⁾と共起する場合は、対訳できないことが多い。

(2) 我 今年 选过 吴教授 的 课。(Li and Tompson 1989:229)

Wǒ jīnnián xuǎnguò Wújiàoshòu de kè.

1SG 今年 選択する-EXP 呉教授 NOM 授業

[??私は今年呉教授の授業を取ったことがある。]

(3) 我 1985年4月 去过 中国。(王还 1988:223)

Wǒ yījiūbāwǔniánsiyuè qùguo Zhōngguó.

1SG 1985年4月 行く-EXP 中国

[?私は1985年4月に中国に行ったことがある。]

(2)、(3)の例文にはそれぞれ、“今年”や“1985年4月”といった時間詞が含まれているが、このような場合、“V 过”を「V したことがある」と訳すと極めて不自然になる。“V 过”と「V したことがある」の意味機能が完全に同じであれば、ほとんどの場合で対訳が可能であろう。しかし、実際のところ、両者はそれほど単純に対応するものではない。これらの事実から、“V 过”と「V したことがある」の意味機能には、典型的に重なる部分と、そうでない部分があることが予想される。本稿では、“V 过”と「V したことがある」の間にどのような意味機能の差異が存在するのか、また、なぜそのような差異が存在するのかについて考察する。⁵⁾

2. 先行研究

2. 1 “V 过”に関する先行研究

三宅(1999)が指摘するように、“V 过”がいかなる時間詞と共起できるかについては、従来異なる二つの説がある。“V 过”は、「特定の時を表す時間詞と共起できる」という説と、「不特定の時を表す時間詞と共起できる」という説である。しかし、研究者によって「特定・不特定」の定義が異なる上、「特定」とされている時間詞が“V 过”と共起する例や、「不特定」とされている時間詞が“V 过”と共起する例も見られ、“V 过”と時間詞に関する統一的な解釈はまだ出てきていない。以下、主な先行研究を見ていく。

● [特定説]

まずは、“V 过”が共起できるのは、特定の時を表す時間詞であるという説を見てみる。

呂叔湘(1980)は、“V 过”を使用する文で時間を提示する場合には、必ず確実な時間を提示しなければならないとする。したがって、“前年”(おとし)のような時間詞は“V 过”と共起できるが、“有一年”(ある年)のような時間詞は“V 过”とは共起不可能としている。王还(1988)は、英語で過去の経験を表す現在完了形と“V 过”の機能を比較し、英語現在完了形は特定の時間を表す時間詞とは共起できないが、“V 过”にはそのような制

約はなく、“1985年4月”のような、特定の時間を表す時間詞と共起可能であるという点を強く主張している。劉綺紋(2000)は、王还(1988)同様、“V 过”と英語現在完了形との比較を交えて考察し、“V 过”は発話時を含まない時間詞を用いて動作発生時を明示することができることを指摘している。また、“V 过”と共起する時間詞は、発話時との時間的隔たりが大きいもの(遠過去を表すもの)から小さいもの(近過去を表すもの)まで様々であることが指摘されている。張岩紅(2002, 2004)及び张岩红(2005)は、“V 过”と共起できる時間詞は特定の時点を表すものであり、特定の時点を指すものであれば、遠過去・近過去を問わず“V 过”と共起可能であるとしている。

● [不特定説]

次に、“V 过”が共起できるのは、不特定の時を表す時間詞であるという説を見てみる。

刘月华(1988)では、“V 过”と時間詞に関する比較的詳しい議論がなされているが、主たる主張は、“V 过”は不特定の時点を述べる時間詞とならば共起できるという点である。具体例としては、“从前”(かつて)、“...的时候”(…の頃)、“刚刚”(たった今)、“刚才”(さっき)のような語が不特定の時を表すものであり、“V 过”との共起が可能であるとしている。一方で、“去年”(去年)、“那年冬天”(あの年の冬)、“前天”(おととい)のような語は、確定した時を述べる語であり、“V 过”とはあまり共起しないと述べている。三宅(1999)は、それまでの先行研究をまとめたうえで、“V 过”と共起する時間詞は典型的には不特定の時間を指すものであり、不特定の時間を指す時間詞の多くは遠過去を指すものであるとしている。

また、特定・不特定といった言い方はしていないものの、孔令达(1986)では、“V 过”は“曾经/从前”(かつて)や“...的时候”(…の頃)といった要素が共起可能であることが指摘されており、马盛静恒(1986)では、近過去時間詞も遠過去時間詞も“V 过”と共起可能であるとされ、“几千年前”(数千年前)や“刚才”(さっき)といった時間詞が挙げられている。张晓玲(1986)では、“去年”(去年)、“上个月”(先月)等の時間詞と“V 过”が共起する例が挙げられている。

以上から、先行研究で指摘されている“V 过”と共起可能な時間詞は、実に様々であることがわかる。具体的には、“曾经”、“过去”、“以前”、“当时”、“...的时候”、“1985年4月”、“几千年前”、“前年”、“去年”、“上个月”、“前几天”、“昨天”、“昨夜”、“今天”、“刚才”、“有一天”、“有时”などが指摘されている。これら以外にも先行研究では共起可能な時間詞が挙げられており、“V 过”が様々な時間詞と共起可能な実情が見て取れる。例をいくつか挙げる。

(4) 前年 我 去过 长城。(吕叔湘 1980:216)

Qiánnián wǒ qùguo Chángchéng.

一昨年 ISG 行く-EXP 万里の長城

[一昨年、万里の長城へ行ったことがある。] (牛島監訳 1995:140)

(5) 他 也 曾 找过 小福子 的 丈夫。(孔令达 1986:275)

- Tā yě céng zhǎoguo Xiǎofūzi de zhàngfu.
3SG ~も かつて 探す-EXP 小福子 NOM 夫
[彼もかつて小福子の夫を探したことがある。]
- (6) 我 刚才 才 学过 这个 字,
Wǒ gāngcái cái xuéguo zhèi ge zì,
1SG さっき 強調 習う-EXP この CL 字
怎么 能 忘 呢? (马盛静恒 1986:452)
zěnmě néng wàng ne?
どうして ~できる 忘れる か
[私はこの字をさっき習ったばかりなのに、どうして忘れることがあろうか?]
- (7) 上个月 我 去过 上海。(张晓玲 1986:53)
Shànggēyuè wǒ qùguo Shànghǎi.
先月 1SG 行く-EXP 上海
[先月、私は上海へ行った。] (原田・張勤訳 2001:86)
- (8) 他 从前 就 引诱过 下等 的 姑娘。(刘月华 1988:14)
Tā cóngqián jiù yǐnyòuguo xiàděng de gūniáng.
1SG かつて 強調 誘惑する-EXP 下級階層 NOM 娘
[彼は前に下級階層の娘を誘惑したことがある。] (一木・王占華訳 2001:117)
- (9) 我 1985年4月 去过 中国。(王还 1988:223=(3))
Wǒ yījiǔbāwūniánsiyuè qùguo Zhōngguó.
1SG 1985年4月 行く-EXP 中国
[私は1985年4月に中国に行った。]⁶⁾
- (10) 早年 他 在 上海交大 读书 时,
Zǎonián tā zài Shànghǎijiāodà dúshū shí,
昔 3SG ~で 上海交通大学 勉強する ころ
曾 当过 交大 一个 旅行团 的 摄影师。(三宅 1999:29)
céng dāngguo jiāodà yí ge lǚxíngtuán de shèyǐngshī.
かつて なる-EXP 交通大学 一 CL 旅行団 NOM カメラマン
[彼は昔、上海交通大学で勉強していたころ、その大学のカメラマンをしたことがある。]
- (11) 這 只 鐘 走得 非常 準,
Zhè zhī zhōng zǒude fēicháng zhǔn,
この CL 時計 動く-様態 とても 正しい
我 昨天 試過 的, ... (略)。 (《圍城》劉綺紋 2000:27)
wǒ zuótiān shìguo de
1SG 昨日 試す-EXP のだ
[この時計はとても正しく動いているんだ、私は昨日試したんだよ...]
- (12) 她 前天 (曾) 买过 香蕉。(張岩紅 2002:257)
Tā qiántiān céng mǎiguo xiāngjiāo.
3SG おととい (かつて) 買う-EXP バナナ
[彼女はおとといバナナを買った。]

2. 2 「Vしたことがある」に関する先行研究

「Vしたことがある」という形式に特化した先行研究は比較的少ない。時間詞との関

連で言えば、「V したことがある」は、発話時から遠い過去を表す時間詞（「以前」、「昔」、「～の頃」など）とは共起できるが、発話時に近い過去を表す時間詞（「昨日」、「さっき」など）や、発話時を含む時間詞（「今日」など）とは共起できないということが今までに指摘されている。また、近過去・遠過去の判断は、あくまで話者の主観によって決まるという主張が多く見られる。以下、主な先行研究を見ていく。

工藤(1989)は、「シタコトガアル」という形式は、ある期間までに少なくとも一度、その出来事が起こっていることを表すが、発話時とかなり隔たった出来事しか表せないため、(13)のような例は成立しないとしている。また、この時間的隔たりは、話者の主観にまかされることが多いと指摘している。しかしながら、なぜ発話時と隔たりのある出来事しか表せないのかという点については、議論されていない。

(13) *君はたしか先週流感にかかったことがあるな。(工藤 1989:113)

池田(1995,1996)は、「シタコトガアル」には、共起しにくい時間詞があることを指摘している。また、「シタコトガアル」が用いられる文中に時間詞が現れる場合、その時間詞は「アル」に掛かるのではなく「シタ」に掛かっていると述べる。そして、「今週」のような時間詞は、「シタ」とは共起できるにもかかわらず、「シタコトガアル」とは共起できないという事実を挙げ、「シタコトガアル」は、出来事が客観的過去に起きていればよいと言うわけではなく、話し手が主観的に過去であると認めたときにはじめて使用できるようになるとし、(14)のような例は成立しないことを指摘している。この点に関しては、3.4 節で改めて議論する。

(14) *イチローは今週ホームランを打ったことがある。(池田 1996:14)

吉川(2003)も、上記の工藤(1989)や池田(1995,1996)同様の指摘が見られる。すなわち、(15)のように、発話時に近い出来事について述べる場合は、「したことがある」は使用できないとしている。しかし、なぜ発話時と近い出来事には使用できないのかという点に関しては、やはり説明がなされていない。

(15) *彼は昨日トルコ風カレーを食べたことがある。(吉川 2003:52)

2. 3 先行研究の問題点

以上、「V 过」と「V したことがある」に関する先行研究を見てきたが、次のような問題点があることが分かる。

- 【1】「V 过」は様々な時間詞と（とりわけ、近過去を表す時間詞とも）共起できるのに、「V したことがある」はそれがなぜ不可能なのかという点について説明が不十分である。
- 【2】(3)の例に見られるように、「V したことがある」は、遠過去を表す時間詞となら何でも自由に共起できるというわけではないという点について、十分な説明が与えられない。

【3】“V 过”と「V したことがある」の根本的な意味機能の差異について、対照研究的視点から十分に考察がなされていない。「過去の経験」という同じ意味を表すとされている両者だが、その振る舞いには違いがあり、その原因を明確に捉えられていない。

3. 関連する諸問題の分析と考察

3. 1 共起する時間詞に関して

先行研究を見る限り、「V したことがある」は“V 过”よりも共起できる時間詞が限られることが分かる。その上、遠過去であっても不自然さを喚起する時間詞が存在することや、先行研究では自然に成立するとされている文（例：「私は去年中国へ行ったことがある」）も、不自然と判断する日本語ネイティブスピーカーがいることも事実である。そこで、「V したことがある」と時間詞との共起に関する傾向を調べるために、「V したことがある」が使用されている例文を合計 262 例抽出し、調査を行った（詳細は下表）。⁷⁾

	例文数	割合
時間詞が共起しない文	162	62%
時間詞が共起する文	100	38%
合計	262	100%

表から、「V したことがある」は、時間詞と共起しない場合が 62%にのぼり、比較的時間詞と共起しにくいという傾向が見て取れる。(16)や(17)の例がそれである。

(16) 私、あびる優は、集団窃盗でお店をつぶしたことがある。(www)

(17) ハツミさんという彼と同じ歳の人で、僕も何度か顔をあわせたことがあるが、とても感じの良い女性だった。《ノルウェイの森》

無論、「V したことがある」はまったく時間詞と共起できないわけではなく、(18)や(19)のように、時間詞と共起する例文も見られる。しかしながら、共起する時間詞にはある一定の特徴が見られる。この点に関しては、後に詳しく述べる。

(18) ぼくも小学生時代にいじめられたことがあるのですが、あの時はなぜいじめられるのか、というのが分からずにいました。だから、本当にどうしようもないというか。(www)

(19) 以前、某大学の附属小学校で“事典・辞書の活用で学力が向上している”というテレビ番組を見たことがある。(www)

以上から、「V したことがある」は、通常は時間詞と共起しないことが多く、時間詞と共起するのはやや有標であると考えられる。

一方で、中国語の“V 过”は、遠過去・近過去を問わず、様々な時間詞と共起する例が比較的容易に得られる。⁸⁾いくつか例をあげる。

(20) 毛泽东 同志 去年 就 讲过，

MáoZédōng tóngzhì qùnián jiù jiǎngguo,
毛沢東 同志 去年 すでに 言う-EXP

文化大革命已经八年了，以安定为好。《邓小平文选第二卷》

[毛沢東同志は昨年すでに、文化大革命はもう八年にもなり、やはり安定をはかるのがよい、と述べている。]《鄧小平文選2》

- (21) 去年春节 时， 放过 一部 香港 电视 连续剧 《天降奇缘》，
Qùniánchūnjié shí, fànguò yí bù Xiānggǎng diànshì liánxùjù Tiānjiàngqíyuan,
去年の春節 時 放送する-EXP 一 CL 香港 テレビ ドラマ 『天降奇縁』
里面有一个可爱的小红娘，专门负责在有缘男女的脚踝上系红线。《中日飞鸿》
[去年の春節、香港で連続ドラマ「天降奇縁（天から落ちてきた奇縁）」をやっていたが、その中で、かわいい縁結びのおばさんがいて、縁のある男女の足のくるぶしをきちんと赤い糸を結んでいた。]《日中飛鴻》

- (22) 今年三月一日 蒋介石 说过：
Jīnniánsānyuèyīrì JiǎngJièshí shuōguo
今年三月一日 蒋介石 言う-EXP
共产党交出军队，才有合法地位。《毛泽东选集第四卷》
[ことしの三月一日に蒋介石は、軍隊をひき渡さなければ、共産党は合法的な地位がえられない、といった。]《毛沢東選集四》

- (23) 我 在 今年一月十六日 的 讲话中 说过，《邓小平文选第二卷》
Wǒ zài jīnniányīyuèshíliùrì de jiǎnghuàzhōng shuōguo,
1SG ~で 今年一月十六日 NOM 講和中 言う-EXP
[今年一月十六日の講話でも話したことだが、...]《鄧小平文選2》

- (24) 刚才 他 还 到 这儿 来过。《家》
Gāngcái tā hái dào zhèr lái guo.
さっき 3SG 強調 至る ここ 来る-EXP
[今しがたもここへいらしたけど、...]《家》

- (25) 静，你 刚才 说过——我们的痛苦和欢乐都是共同的。《青春之歌》
Jìng, nǐ gāngcái shuōguo
静 2SG さっき 言う-EXP
[静、きみはさっき、じぶんでいったじゃないかね——ぼくたちは苦しみも悲しみもみな、共にするんだって。]《青春の歌》

- (26) “良少爷，前天 讲过 的 许家 的 亲事，
Liángshǎoyě, qiántiān jiǎngguo de Xǔjiā de qīnshi,
良材さん 一昨日 話す-EXP NOM 許家 NOM 縁談
你的意思到底怎样？”《霜叶红似二月花》/《霜葉紅似二月花》
[良材さん、おとといの許家との縁談のことだけど、どうなの、あなたの気持ちは？]

3. 2 「Vしたことがある」と時間詞がなじまない理由

3. 2. 1 構文の違い

それでは、「Vしたことがある」が時間詞にあまりなじまないのは、いったいなぜであろうか。本稿では、構文の違いという観点から説明を加えていく。まず、“V 过”を「Vしたことがある」と訳せる文を再度見てみたい。

(27) 我吃过这种鱼。[私はこの魚を食べたことがある。] (= (1))

中国語と日本語において、過去の経験という同じ意味を表す際に、その表現形式には著しい相違があることに気づく。中国語では、過去の経験を、動詞に後接するアスペクトマーカ―として言語化し、日本語では、『V したこと』が『ある』という存在文⁹⁾の形式で言語化している。結論から言えば、「V したことがある」が時間詞と共起しにくいのは、それが存在文の意味機能を有し、とりわけ、西山(2003)で指摘されているような、絶対存在文に対応するような機能を有することに由来するのである。以下、本稿では、「V したことがある」を絶対存在文の一種であると捉え、その意味機能を考察することで、時間詞との共起のしにくさに関して適切な説明が可能であることを示す。

3. 2. 2 絶対存在文の一種としての「XはVしたことがある」構文

日本語の存在文には様々な意味・用法があるということは、先行研究（西山 2003, 金水 2006, 新井田 2004 など）でも指摘されているが、西山(2003:89-93,401-412)では、場所表現を伴わない存在文として、絶対存在文の存在が指摘されている。(28)~(31)がそれである。

(28) 洋子が教えることのできない科目がある／存在する。(西山 2003:401)

(29) 田中先生が今年度担当しているクラスはありません。(西山 2003:402)

(30) 君たちのなかに、洋子を殺したひとがいる。(西山 2003:402)

(31) この世の中には、米の嫌いなひとがいる。(西山 2003:406)

西山(2003:89-90,401-406)によれば、(28)~(31)の下線部は具体的な指示対象をもつ指示的名詞句ではなく、非指示的な変項名詞句 x であり、文全体としては、その変項 x の値が空ではないことを述べるもので、絶対存在文とはあくまで変項 x の有無を問題にする種類の存在文であるとしている。つまり(28)では、「洋子が教えることができない科目 x」の値が空ではないことを述べているのであり（西山 2003:90）、その科目が具体的に何であって、それがどこに存在するのかなどを問題にしているのではないということである。また、西山(2003:402,406)は、(30)と(31)に現れる「君たちのなかに」や「この世の中には」といった一見場所表現とも思えるものは、場所表現ではなく、あくまで変項 x の値が走る範囲にすぎないとしている。

本稿で問題にしている「XはVしたことがある」という形式¹⁰⁾も、西山(2003)のいう絶対存在文に対応する表現であると考えることで、その振る舞いに適切な回答を与えることができる。結論から言えば、「XはVしたことがある」構文は、「XがVする」というイベントの発生がゼロではない、即ち「XがVする」という出来事が今までに必ず発生しているということを述べる構文なのである。この構文では「XがVする」という「出来事」が変項であるという点がやや特殊ではあるものの、それはあくまで変項名詞句の一種と捉えることができる。そしてこの構文は、そのイベントがいつ発生したか、すな

わちそのイベントが時間軸上のどの位置（時点）に置かれるかということは問題にしない構文なのである。

時点という概念は、唯一、イベントを特定化できるものである。たとえば、[Aさんが上海へ行く]というイベントは、まったく同じイベントが複数回起きることも想定できる。しかし、これに時点を加え、「2002年4月6日にAさんが上海へ行った」とした場合、「2002年4月6日」という時点は二度と繰り返されるものではないという性格から、[2002年4月6日にAさんが上海へ行った]というイベントは一回きりの、ただ一つのものとなる。このように、時点概念を導入することで、イベントは一回性の、特定のものとなるのである。この意味で、時点とはイベントを特定する（一つに絞る）ことができる唯一の要素なのである。

故に、「XがVする」というイベントの発生がゼロではないことを表すこの構文に、イベントを特定化する機能をもつ時間詞が入ると、構文が表す意味機能（不特定で非指示的なそのイベントの発生がゼロではないということ）と時間詞が表す意味機能（どの時点で起きたイベントかを特定し、一つに絞ること）が相成れなくなり、不自然さを招くのである。これは、西山(2003:89)が指摘するように、(28)の下線部の変項名詞句を、特定の指示的な名詞（例：数学）で置き換えると「?数学が存在する／ある」と、不自然な文になってしまうことと並行的な現象であると考えられる。

このように、「XはVしたことがある」構文は、「XがVする」というイベントの発生がゼロではないということを述べる構文であるため、時間という基準でそのイベントを特定することができず、時間詞と共起しにくいのである。以下、「XはVしたことがある」構文が時間という概念となじみにくいことを支持する事実をいくつか挙げておく。

まず、(32)のように、「XはVしたことがある」構文は、時を尋ねるwh疑問文（when疑問文）に向かないことから、動作行為の発生時に着目した表現ではないことがうかがえる。

(32) A:「私は一人で中国に行ったことがあります。」

B:「??いつ行ったことがありますんですか。(cf.いつ行ったんですか)」

また、「期間」を表す表現も、「Vしたことがある」と共起すると不自然になるものがある。

(33) 私は2年間中国語を勉強したことがある。

(34) ?私は2002年から2004年まで中国語を勉強したことがある。

(33)に比べ、(34)は自然度が下がる。「2年間」のように、相対的な時間の長さのみを述べる場合、「XはVしたことがある」構文は自然に成立するが、「2002年から2004年まで」のように、西暦等を用いて期間を述べると、自然度が下がるということである。これには、期間を表す表現の性質が関わっていると思われる。「2年間」は、単に時間的長さだけを述べるのに対して、「2002年から2004年まで」は、2年という時間的長さに加

え、その2年という期間が、時間軸上のどの位置に置かれるか、いわば、「期間」に加えて「時点」を述べる働きも有しているのである。そのため、いきおい「中国語を勉強する」というイベントが「いつ起きたのか」にも言及することになる（つまり、イベントの発生時を特定することに近くなる）ため、「XはVしたことがある」構文と共起すると、不自然さを喚起しやすくなると考えられる。純粹に「期間」のみを述べるのか、あるいは、「期間」に加えて「時点」をも述べるのかという違いが、「XはVしたことがある」構文における振る舞いにも反映されるのである。

3. 3 “V 过” と時間詞がなじむ理由

それでは、“V 过”が様々な時間詞と共起可能なのはなぜだろうか。中国語のAspectに関する研究によく見られる記述は、「“V 过”は動作や状態が終結しており、現在はその動作（及び動作の結果状態）や状態が継続していないことを表す」という類のものである。¹¹⁾つまり、“V 过”は過去の経験というものの、実際は、「動作（及びその結果状態）・状態の終結点の通過」という動作や状態の一局面を語るAspectマーカーとしての意味機能を第一義的に担っているのである。そのため、“V 过”はいったん発生すると永遠に終結することのない述語には使用できないが（例：*他死过。）、(35)~(37)に示すように、その他の殆どの動詞や形容詞に使用可能である。

- (35) 你 打过 高尔夫球 吗? (刘月华等 2001:402 動作動詞+“V 过”)
 Nǐ dǎguo gāo'érfūqiú ma?
 2SG する-EXP ゴルフ Q

[あなたはゴルフをしたことがありますか。]

- (36) 小张 的 妹妹 以前 跟 她 外婆家 姓过 王...
 Xiǎo-Zhāng de mèimei yǐqián gēn tā wàipójiā xìngguo Wáng
 張さん NOM 妹 以前 ~と 3SG 祖母の家 名乗る-EXP 王
 (刘月华等 2001:402 状態動詞+“V 过”)

[張さんの妹は、以前は彼女の祖母と同じく姓を王と名乗ったが...]

- (37) 两年来, 这个 队的 出工人数
 Liǎngniánlái, zhèi ge duì de chūgōngrénshù
 二年来 この CL 隊 NOM 出勤者数
 从来 没 像 今天 这么 齐全过。
 cónglái méi xiàng jīntiān zhème qíquánguo.
 これまで NEG ~のよう 今 これほど そろろ-EXP
 (刘月华等 2001:402 形容詞+“V 过”)

[ここ二年間、この隊の出勤者数は今日ほどちゃんとそろったことはなかった。]

“V 过”は過去の事態しか言及できないという幾分テンス的な性格も持ち合わせているものの（これは文法化の結果である）、“了”（完了Aspectマーカー）や“着”（持続Aspectマーカー）と並ぶAspectマーカーと位置づけることができるであろう。すなわち、“V 过”の本来的な意味機能は、出来事の有無を述べるというよりは、該当の出来事の発生は前提として、その出来事や状態が終結を見ており、かつ、その結果状態

なども残っておらず、出来事や状態が完全に過ぎ去っているという局面を語ることにあ
る。そして、その出来事の影響が全く残っていないという意味（すなわち、発話時にお
ける該当の出来事の影響からの解放・断絶）が転じて、過去の経験という意味を表すよ
うになったものと考えられる。この点、イベントの発生を前提とせず、イベント発生
の有無を第一義的に述べる「XはVしたことがある」構文とはその意味機能が大きく異
なっているといえるであろう。

このように、“V 过”はイベントの発生は前提とし、そのイベントの在り方を述べるア
スペクトマーカ―としての意味機能を備えているために、その出来事がいつの段階で終
結点を通過したのかを述べるために時間詞を共起させ、イベントを特定化しても、日本
語のように構文と時間詞の意味機能が衝突するようなことは起こらず、自然に成立する
ものと考えられる。

3. 4 「Vしたことがある」となじむ時間詞、なじまない時間詞

前述のように、「Vしたことがある」は時間詞と全く共起しないわけではない。共起し
ている時間詞（100例）のうち、出現頻度が高いのは、「～の時、～時分、～の頃、～中」
（計21例）、「～前、前に」（計14例）、「以前」（8例）、「かつて」（8例）、「前に」（7例）
などである。以下に例をいくつか挙げる。

- (38) ぼくは高校生の時に、有名作家がやっているような「実存主義的」短篇小説をい
くつか書いたことがある。(www)
- (39) 以前、横浜 FC 以外のチームの試合で当選したことがあるので、この手の抽選は
ある程度期待します。(www)
- (40) 私もかつて、ニチイの西端社長にあることを尋ねられ、「知りません」というひ
と言がいえず知ったかぶりをし、あとで嘘がばれ、それこそ本当に恥ずかしい思
いをしたことがある。《心の危機管理術》
- (41) 私が現在行くことを前にやったことがあると感じるのは、それをもう一度行いた
いという願望の倒錯したものではあるまいか。《野火》
- (42) こういった聞いたことのない外国語の音声の発音については子供のころに聞い
たことがあるかどうかよりは...(www)

出現頻度が高い時間詞には一定の特徴がある。まず、(39)～(41)の「以前・かつて・前
に」はいずれも、過去をすべて含む表現であり、過去の具体的時点に言及するものでは
ない。また、(38)、(42)の「高校生の時・子供のころ」という時間詞は、それが表す期間
がかなり時間幅を有し、面的にそのイベントを包み込むようなもので、厳密なイベント
発生時には言及しにくいものである。時間幅が広ければ、それだけ時点としての厳密性
が薄れ、イベントを確実に特定して捉えることにはなりにくいのである。即ち、広い時
間幅をもつ時間詞は、時点表現というよりも、むしろ「XがVする」というイベント(変

項) が走る範囲と捉えることが可能であり、該当のイベントがその時間枠の中で起きている、つまり、変項「XがVする」はその時間幅(範囲)においてゼロではない、という解釈が可能であると考えられる。

前述のように、「XはVしたことがある」構文は、経験となるイベントの発生がゼロではないことを述べるものであり、時点という要素でそのイベントを指示的なものにして述べることは難しい。近過去を表す時間詞は、それが表す時間幅が短いものが多く、厳密な時点表現と解釈されやすくなってしまふ。そのため、近過去時間詞を用いると、時点表現でイベントを特定化することになってしまい、許容度が低くなるのである。これが、近過去時間詞の多くが共起できない理由である。¹²⁾逆に、遠過去時間詞であっても、イベントが起きた時点を厳密に示せるようなものを用いると、イベントを特定化することになってしまふ。故に、ここでもやはり、イベント発生の有無を問題にしている構文に対して、イベントの指示化・特定化という作用が働いてしまい、不自然さを喚起することになるのである。実際、具体的な西暦でイベント発生時が示されているものはわずか4例しか得られなかった。時間幅が狭い時点表現は、変項「XがVする」の走る範囲として解釈することは難しいのである。このように、問題は単に「遠過去か近過去か」というだけでなく、発話時を基準に考えた時に、その時間詞がイベントの発生時点を厳密に指し示すことができるかどうか、「XはVしたことがある」構文と共起できるかどうかに関与しているのである。

ここで、共起する時間詞に関して少し補足しておく。上記の通り、共起する時間詞のうち、「～の時」は出現頻度が特に高く、その種類も様々である。中でも、「先生に、『いちばん好きな授業は何?』と聞かれた時に、『体育』と臆面もなく答えて、驚かせたことがある」のように、一見厳密な時点を指しているように見える例も得られた。しかし、この例の「時に」は、時間ではなく、「先生が尋ねる」という出来事と「驚かせる」という二つの出来事が同時に発生したことを表しているにすぎない。そのため、この例の「時に」は「際に」に置き換え可能である(...と聞かれた際に)。逆に、(38)のように、文字通り客観的な時間を表す「時に」は、「際に」に置き換えることはできない(*高校生の際に...)。このような「時に」は時間を表す要素ではないが故に、「Vしたことがある」と共起しても不自然にはならないものと考えられる。また、「おやじの死ぬとき一週間ばかり徹夜して看病した事がある」における「死ぬ時」は、「死ぬ瞬間・死んだ時点」を述べているわけではなく、「臨終を迎えつつある時期」と解釈できるものであり、これも厳密な時点表現とは言いにくい。「～前」という表現も比較的多く現れるが、「10年ほど前・数年前」のように概数的なものも多く、時点が厳密に定まっていないものが多い。また、「天気のごく穏やかな日の午後」のように、時間といえなくもないが、もはやイベントが起きた状況を設定しているようなものも存在する。これも厳密な時点を指し示すものとは性格が異なるため、共起しやすいものと考えられる。

この CL スイス時計 すでに なる-EXP 三 回

[このスイス時計はすでに三回質に入っていた。]《応報》

(45)と(46)はいずれも、過去の経験として、そのイベントを何度経験したかを述べているが、その捉え方は日本語とは異なると考えられる。“V 过”はイベントの発生自体は前提としているために、中国語における回数表現は、日本語のようにイベント（変項）が取りうる値という概念ではなく、同類のイベントの終結点を何度通過したかという点を述べているのである。“几次”であれば、同類のイベントの終結点の通過回数が数回であり、“三次”であれば、終結点の通過回数が三回であることを表しているのである。尚、本稿では、頻度副詞は時間詞の中に含めない。イベントの数を数えるということは、イベントの存在を認めるということに過ぎず、イベントの存在を前提としてそれを特定するようなものではない。¹⁴⁾この意味で、頻度副詞はイベントを特定する作用を有するものではなく、時間詞とは異なる要素と考える。

3. 6 否定文に関して

ここで、否定文に関しても考察しておきたい。「V したことがある」と“V 过”の否定形式はそれぞれ、「V したことがない」と“没 V 过”であるが、これらはいずれも今までにその経験がないことを表している。しかしながら、今までの議論を踏まえれば、ここでも日本語と中国語の捉え方の違いが見て取れる。すなわち日本語では、イベントの発生がゼロであるということ（イベントの非存在）、中国語では、イベントの終結点の通過をまだ一度も見えていないということを表しているのである。以下に例を挙げる。

(47) 一行七人， 除 我 之外 都 没 到过 陕北...《插队的故事》

Yìxíngqīrén, chú wǒ zhīwài dōu méi dào guo Shǎnběi

一行七人 除く 1SG ~の他 皆 NEG 行く-EXP 陝西省北部

[一行七人のうち私以外陝西省北部に行ったことがない。]《遙かなる大地》

(48) 祥子 没有 想到过 这个。《骆驼祥子》

Xiāngzi méiyǒu xiǎngdào guo zhèige.

祥子 NEG 考える-EXP これ

[祥子はこんなことゆめにも考えたことはなかった。]《駱駝祥子》

(49) 这 孩子 命苦， 没 吃过 一 顿 好茶饭。《小鮑庄》

Zhè háizi mìngkǔ, méi chīguo yí dùn hǎocháfàn.

この子 かわいそう NEG 食べる-EXP 一 CL うまいもの

[あの子はかわいそうだ。一度もうまいものを食べたことがなかった]《小鮑莊》

(50) 还有 海， 我 还 没 见过 海， 多 倒楣!《霜叶红似二月花》

Háiyǒu hǎi, wǒ hái méi jiànguo hǎi, duō dǎoméi.

それから 海 1SG まだ NEG 見る-EXP 海 全く いや 《霜葉紅似二月花》

[それから海。あたしはまだ海を見たことがないのよ。全くいやになっちゃうわ。]

前述のように、日本語と中国語で捉え方には違いがあるものの、いずれも客観的にはそのイベントが未発生であること自体は変わらない。イベントが未発生である以上、時点表現を用いてイベントを特定することなど、もとより不可能である。よって、否定文

においては(47)～(50)のように、対訳が可能となることが多いのである。

4. まとめと今後の課題

以上、“V 过”と「XはVしたことがある」構文の意味機能の差異について考察してきた。「XはVしたことがある」構文は、一種の絶対存在文であり、非指示的なイベントの発生の有無を述べるもので、イベントを特定化してその存在を述べるものではない。また、時点という概念はイベントを特定化するものであり、時間詞を用いてイベントを特定してしまうと、往々にして構文が表す意味と時間詞の特定化作用が相成れなくなってしまう。これが、「XはVしたことがある」構文が時間詞と共起しにくい原因である。一方“V 过”は、動作や状態の発生は前提として、その終結点の通過を第一義的に表すというアスペクトマーカ―としての意味機能を備えているため、その出来事や状態がいつの段階で終結点を通じたかを述べるために時間詞を共起させ、イベントを特定化しても、日本語のように構文と時間詞の意味機能が衝突するようなことは起こらず、自然に成立するのである。また、「XはVしたことがある」構文は、あらゆる時間詞と共起しないというわけではなく、過去をすべて含むような時間詞や、時間幅があり、該当のイベントを面的に包み込むような時間詞ならば、イベントを特定化することにはなりにくく、比較的容易に共起できることも明らかになった。¹⁵⁾

“V 过”と「Vしたことがある」に関する問題は、無論本稿で論じた限りではない。例えば(51)や(52)のように、“V 过”が連体修飾節に使用される場合にも、対訳できないことがある。

(51) 我们去年呆过的那个车站好着哪。《金光大道》/《輝ける道》

[去年行ったあの駅は良かったな。(cf.??去年行ったことがあるあの駅は良かったな)]

(52) 像倪藻和姐姐养过的猫。《活动变人形》

[姉ちやまと一緒に飼っていた (cf.??飼ったことがある) 子猫みたい。] 《応報》

実はこの問題に関しても、本稿で提案した分析で適切な説明が可能であり、本稿の議論を支持する証拠となることが判明したが、紙幅の都合上、詳細は別稿に譲ることにする。また今後の課題として、蓋然性を表すとされている「Vすることがある」等の形式についても論じる必要がある。これらの点に関しても、別稿で改めて詳しく論じる予定である。

以上の考察を通じて、“V 过”と「Vしたことがある」の意味機能の違いが明らかになった。ここで、改めて強調しておきたいのは、“V 过”と「Vしたことがある」の間には、はっきりと線が引けるようなものではないということである。“V 过”と「Vしたことがある」には類似した用法も多く見られ、その意味では両者が表す意味は重なる部分も多い。ただ、時間詞との共起などに見られる両者の振る舞いの違いが何に由来するのかを考えた時、そこには構文の違いからくる意味機能の差異を見て取れるのである。

註

- 1) 本稿は、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻に2007年度提出の修士論文の一部および、日本中国語学会関東支部例会（2007年9月22日）、日本中国語学会第2回関東支部拡大例会（2008年3月22日）における口頭発表の一部に基づくものである。
- 2) 現代中国語において、動詞に後接する“过”には二種類あるといわれている。ひとつは、動作の終了を表す結果補語（動詞に後接して、その動作の結果として現れた状態を述べる要素）の“过”であり、いまひとつは過去の経験を表すアスペクトマーカの“过”である。しかしながら、両者はいずれも動詞“过”（超える、過ぎるなどの意）に由来し、文法化を経て徐々に変化していったものである。本稿では、経験アスペクトマーカの“过”を考察対象とし、“V 过”と記す。
- 3) 例文及び日本語訳については、特に断りがない限り、本稿筆者による。また、必要に応じて、例文に適宜下線などを付す場合もある。グロスが必要に応じて付しているが、議論と直接関係しない部分は省略した箇所もある。尚、使用するグロスは以下の通り。1, 2, 3 : 1、2、3 人称、CL(classifier) : 類別詞、EXP(experiential aspect) : 経験アスペクトマーカ、NEG(negation) : 否定マーカ、NOM(nominalizer) : 連体修飾マーカ、PL(plural) : 複数、Q(question) : 疑問マーカ、SG(singular) : 単数
- 4) 本稿では、“V 过”と「V したことがある」におけるV（イベント）が発生した時間を表す副詞的要素を一括して時間詞と呼ぶ。
- 5) 本稿では、「V したことがある」と「V したことがあった」の違いは扱わない。
- 6) 日本語の自然さを保つため、(9)は(3)とは異なる日本語訳を付している。
- 7) 例文の採取にあたっては、《北京日本学研究中心中日対訳コーパス》の日本語作品（112例）、《アサヒコム <http://www.asahi.com>》（100例）、及びインターネット（50例）を使用した。無論、厳密な意味でのコーパス調査のためには、コーパスの質・量ともに充実させる必要があるが、ある程度の傾向は見て取れると考えられる。
- 8) ただし、中国語において、“V 过”が時間詞と共起する割合が高いということを必ずしも保証するわけではない。重要なのは、中国語において、“V 过”と時間詞が共起した時に、日本語に比べてどれほど自然に文が成立するかという点である。(20)から(26)に挙げた中国語文が自然に成立していることを考慮すれば、“V 过”は「V したことがある」よりも様々な時間詞に対して許容度が高いことは明らかである（日本語では、(20)から(26)に挙げられているような時間詞と「V したことがある」を共起させることは極めて難しい）。また、先行研究の中には、近過去を表す時間詞と“V 过”が共起した場合、話し手の気持ちを強調する“还”や“才”といったモーダルな副詞も共起することが多いという指摘がある。これに関しては別途詳しく考察する必要があるが、“V 过”と時間詞に関する先行研究の意見に、著しい食い違いが見られる一因として、各々の研究がどのような文脈を想定して議論しているか、という点も挙げられるかもしれない。
- 9) ここでいう存在文とは、存在動詞「ある」が使用されている文を言う。
- 10) 以降、議論の便宜上、「XはVしたことがある」構文と呼ぶ。
- 11) 陈平(1988)、龚千炎(1991)、石毓智(1992)、劉綺紋(2006)などを参照。
- 12) 例文中に、「比較的最近」という近過去時間詞が使用されている例（「...比較的最近実際に起こったことがある」）が一例あった。通常は「比較的最近起こっている」とするほうが自然だが、それでも「昨日／さっき」よりは許容度が高い。それはやはり、「比較的最近」という時間詞がある程度の時間幅を持ち、「昨日／さっき」よりは厳密な時点表現とは解釈されにくいことによるものであろう。
- 13) ただし、仁田(2002:284-288)が指摘するように、「したことがある」とは、逆に言えば「しなか

ったこともある」ということなので、恒常的な事態成立を表す「常に」等の頻度副詞は共起できない。

- 14) この考え方に関しては、木村(2002)にも指摘がある。
- 15) 時間詞との共起のしにくさに関して言えば、英語現在完了形の経験用法も「XはVしたことがある」構文と類似した振る舞いをする。しかし、英語現在完了形は、「Vしたことがある」よりも時間詞との共起に関する制限が厳しい。たとえば、日本語では比較的 naturally 共起できる「子供のころ」(When I was a child)のような節も、英語現在完了形とは共起できない。詳しい議論は、三原(1997)などを参照。

参考文献

- 相原茂・片山博美・守屋宏則・平井和之 1996, 『現代中国語文法総覧』, くろしお出版。
- 池田英喜 1995, 「シタコトガアルとシテイル—経験を表す二つの形式—」, 宮島達夫・仁田義雄編『日本語の意義表現の文法(上) 単文編』:143-148頁, くろしお出版。
- 池田英喜 1996, 「経験を表す「シタコトガアル」について」, 『待兼山論叢 日本学編』第30号:11-26頁, 大阪大学文学部。
- 牛島徳次監訳 1992, 『中国語用例辞典』, 東方書店。
- 木村英樹 2002, 「“的”の機能拡張——事物限定から動作限定へ」, 『現代中国語研究』第4期:1-13頁。
- 金水敏 2006, 『日本語存在表現の歴史』, ひつじ書房。
- 工藤真由美 1989, 「現代日本語のパーフェクトをめぐる」, 『言語学研究会の論文集・その3 ことばの科学』:53-118頁, むぎ書房。
- 張岩紅 2002, 「動態助詞“过”の言語環境について」, 日中対照言語学会編『日本語と中国語のアスペクト』:247-271頁, 白帝社。
- 張岩紅 2004, 「動態助詞“过”の日本語訳について」, 『21世紀言語学研究 鈴木康之教授古希記念論集』:159-178頁, 白帝社。
- 新居田純野 2004, 「人の《特性》と《状態》をあらわす存在文——「～がある」形式について——」, 『日本語文法』4巻2号:202-213頁, 日本語文法学会。
- 西山佑司 2003, 『日本語名詞句の意味論と語用論—指示的名詞句と非指示的名詞句』, ひつじ書房。
- 仁田義雄 2002, 『新日本語文法選書3 副詞的表現の諸相』, くろしお出版。
- 三原健一 1997, 「動詞のアスペクト構造」, 鷲尾龍一・三原健一『日英語比較選書7 ヴォイスとアスペクト』:108-186頁, 研究社出版。
- 三宅登之 1999, 「周縁的“过2”について」, 『中国語』第478号:27-32頁。
- 吉川武時編 2003, 『形式名詞がこれでわかる』, ひつじ書房。
- 劉綺紋 2000, 「“一過”形式のパーフェクト」, 『中国研究集刊』余号(第27号):14-41頁, 大阪大学中国哲学研究室。
- 劉綺紋 2006, 『中国語のアスペクトとモダリティー』, 大阪大学出版会。
- 陈平 1988, 论现代汉语时间系统的三元结构, 『中国语文』第6期:401-422頁。
- 龚千炎 1991, 谈现代汉语的时制表示和时态表达系统, 『中国语文』第4期:251-261頁。
- 孔令达 1986, 关于动态助词“过1”和“过2”, 『中国语文』第4期:272-276頁。
- 刘月华 1988, 动态助词“过2 过1 了1”用法比较, 『语言研究』第1期:6-16頁。(和訳:一木達彦・王占華 2001, 「動態助詞「过2」「过1」「了1」の用法比較」, 于康・張勤編『中国語言語学情報4 テンスとアスペクトⅢ』:95-124頁, 好文出版。)

- 刘月华·潘文娉·故[韦华] 2001, 『实用现代汉语语法 增订版』, 北京:商务印书馆。
- 吕叔湘主编 1980, 『现代汉语八百词』, 北京:商务印书馆。
- 马盛静恒 1986, 汉语“了、过、是...的、着、在、呢”教材教法的构想, 『第一届国际汉语教学讨论会论文集』:446-455 页。
- 石毓智 1992, 论现代汉语的体范畴, 『中国社会科学』第 6 期:183-201 页。
- 王还 1988, 关于怎么教“不、没、了、过”, 『世界汉语教学』第 4 期:222-224 页。
- 张晓铃 1986, 试论“过”与“了”的关系, 『语言教学与研究』第 1 期:48-57 页。(和訳:原田寿美子・張勤 2001, 「「过」と「了」の関係についての試論」, 于康・張勤編『中国語言語学情報 4 テンスとアスペクトⅢ』:77-94 頁, 好文出版。)
- 张岩红 2005, 肯定句中动态助词“过”的汉日对比研究, 『日语研究』第三辑:115-128 页, 北京:商务印书馆。
- Li, Charles N. and Thompson, Sandra A. 1989. *Mandarin Chinese: A functional reference grammar*. Berkeley: University of California Press.